

## 研究活動に関する業績報告

氏名 行正 信康

2022年2月1日現在

### 1. 研究分野

主な研究領域：免疫検査学，遺伝子検査学

主な研究スタイル：基礎研究（実験医学的手法）

### 2. 研究業績（過去5年間）

分類	題名、著者(申請者含む)、発行掲載誌名/発表場所・巻号・頁、発行/発表年月など
①原著論文	<p>1. Oboshi W, Hayashi K, Takeuchi H, Ikeda K, Yamaguchi Y, Kimura A, Nakamura T, <u>Yukimasa N</u>. MicroRNA-150 suppresses p27Kip1 expression and promotes cell proliferation in HeLa human cervical cancer cells. Oncology Letters 2020; 20: 210. (査読あり)</p> <p>2. <u>Yukimasa N</u>, Kanaoka Y, Okito M, Oboshi W, Sato S, Yamazaki M, Nakamura T. Differences in cytokine gene expression after a stimulation with <i>Escherichia coli</i> and <i>Porphyromonas gingivalis</i> or lipopolysaccharides derived from these bacteria Journal of Life Sciences Research. 2020; 7 (1): 13-20. (査読あり)</p> <p>3. 吉永亜子, 小川俊夫, 田野ルミ, 濱口豊太, <u>行正信康</u> 子の <i>FTO</i> 遺伝子 (rs1558902, rs1121980) SNP 型から確率計算により、親世代における SNP 型別肥満率を推定する試案 保健医療福祉科学 2018; 8: 32-39. (査読あり)</p> <p>4. Oboshi W, Watanabe T, Hayashi K, Nakamura T, <u>Yukimasa N</u>. QPY/RAH haplotypes of the GZMB gene are associated with natural killer cell cytotoxicity Immunogenetics 2018; 70: 29-36. (査読あり)</p> <p>5. <u>Yukimasa N</u>, Kohama S, Oboshi W, Sato S, Nakamura T. Genetic factors of low-responsiveness to hepatitis B virus vaccine confirms the importance of Human Leukocyte Antigen class II types in a Japanese young adult population Acta Medica Okayama 2017; 71 (5): 433-436. (査読あり)</p> <p>6. 林恵輔, 大星航, 中村文洋, <u>行正信康</u> 悪性腫瘍の細胞増殖能における microRNA の <i>in vitro</i> 機能解析 日本染色体遺伝子検査学会雑誌 2017; 35 (1): 54-61. (査読あり)</p> <p>7. <u>行正信康</u>, 大星航, 林恵輔, 中村洋丈 肥満の遺伝的要因: Fat Mass and Obesity Associated Gene (<i>FTO</i> 遺伝子)一塩基多型の関与</p>

	香川県立保健医療大学雑誌 2017; 8: 27-32. (査読あり)
②総説	<p>1. 中村丈洋, 大星航, 小濱翔太, <u>行正信康</u>, 上野一郎 保健医療教育におけるアクティブ・ラーニングとしての学生主導型授業および反転授業 香川県立保健医療大学雑誌 2018; 9: 9-14. (査読あり)</p> <p>2. <u>行正信康</u>, 十良澤勝雄, 福地邦彦 実は増えている“梅毒” 梅毒検査法の現状 臨床検査 2018; 62 (2): 176-182. (査読なし)</p>
③著書	<p>1. 遺伝子分析科学認定士教本 (仮称) 編者: 日本臨床検査同学院, (2022年3月 発刊予定) 行正信康担当部分: 「基礎編 第2章遺伝子検査に必要な知識 B. 機器の取扱い a. クリーンベンチ・安全キャビネット b. 炭酸ガス培養装置 c. 恒温水槽 d. 電気泳動装置 e. 遠心分離装置 f. 滅菌装置 g. 顕微鏡 h. 写真撮影装置」を単著 (執筆済) (査読なし)</p>
④症例報告	なし
⑤口頭発表	<p>①国際学会</p> <p>1. Wataru Oboshi, Toru Watanabe, Keisuke Hayashi, Takehiro Nakamura, <u>Nobuyasu Yukimasa</u> Natural killer cell cytotoxicity is influenced by QYP/RAH haplotypes of the GZMB gene The 29th World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine WASPaLM2017 The 64th Annual Meeting of Japanese Society of Laboratory Medicine November 17, 2017 (Kyoto International Conference Center)</p> <p>②国内学会</p> <p>1. 沖藤水咲, 山崎未来, 佐藤千秋, <u>行正信康</u> 敗血症に伴うエンドトキシントレランスと PGE2 の関連性 日本医療検査科学会第53回大会 (横浜市) 2021年10月</p> <p>2. 大星 航, 林 恵輔, 竹内啓晃, <u>行正信康</u>, 中村丈洋 肺腺癌細胞株を用いた microRNA-150 の標的遺伝子の検索および機能の解析 第38回日本染色体遺伝子検査学会学術集会 (オンライン Web 開催) 2020年12月</p> <p>3. <u>行正 信康</u>, 叶岡 優菜, 三本 愛里, 中村 丈洋 培養単球における病原体構成成分による免疫不応答 (エンドトキシントレランス) の研究 日本臨床検査自動化学会第51回大会 (横浜市) 2019年10月</p>

	<p>4. 沖藤 水咲, 石川 舞, 原田 彰雄, <u>行正 信康</u>, 中村 丈洋 サブスタンスPと細胞障害との関係の解析 第14回日本臨床検査学教育学会学術大会 (熊本市) 2019年8月</p> <p>5. 石川 舞, 沖藤 水咲, 松岡 敦子, 豊田 康則, <u>行正 信康</u>, 中村 丈洋 脳血管障害におけるDNA損傷の程度 第14回日本臨床検査学教育学会学術大会 (熊本市) 2019年8月</p> <p>6. <u>行正 信康</u>, 中村 丈洋 保健医療系大学の地域貢献として考案した肥満関連遺伝子のSNP解析 第35回中四国臨床細胞遺伝学研究会 (倉敷市) 2019年2月</p> <p>7. <u>行正 信康</u>, 叶岡 優菜, 大星 航, 佐藤 正一, 中村 丈洋 培養単球の<i>E. coli</i>および<i>P. gingivalis</i>刺激におけるサイトカイン産生効果 日本臨床検査自動化学会第50回大会 (神戸市) 2018年10月</p> <p>8. 岩崎 彩花, 山本 優衣, 大星 航, <u>行正 信康</u>, 中村 丈洋 Circulating cell-free RNAを用いた遺伝子定量検査の検討 日本染色体遺伝子検査学会第35回学術集会 (天理市) 2017年11月</p> <p>9. <u>行正 信康</u>, 小濱 翔太, 大星 航, 佐藤 正一, 中村 丈洋 敗血症バイオマーカーの産生機序と検査値へ及ぼす影響: 細胞表面マーカーCD14・CD11aの変動 日本臨床検査自動化学会第49回大会 (横浜市) 2017年9月</p> <p>10. 小濱翔太 大星航 佐藤正一 中村丈洋 <u>行正信康</u> 日本人におけるHBワクチン接種後のHBs抗体産生量は日本人に特有な遺伝子多型が影響している 第12回日本臨床検査学教育学会学術大会 (越谷市) 2017年8月</p> <p>11. <u>行正信康</u>, 大星航, 中村丈洋, 眞鍋紀子 臨床検査室勤務を体験した教員が実施する問題解決型講義の一例 第12回日本臨床検査学教育学会学術大会 (越谷市) 2017年8月</p> <p>12. 中村丈洋, 大星航, <u>行正信康</u>, 眞鍋紀子, 上野一郎 臨床検査技師教育課程における染色体遺伝子検査教育の実践 - 香川県立保健医療大学での取り組み - 第12回日本臨床検査学教育学会学術大会 (越谷市) 2017年8月</p> <p>13. 林恵輔, 大星航, 中村丈洋, <u>行正信康</u> 腫瘍細胞株におけるmiR-150の機能と標的遺伝子の解析 第33回中国四国臨床細胞遺伝学研究会 (善通寺市) 2017年2月</p>
⑥その他	<p>1. <u>行正 信康</u> 免疫検査学教育におけるアクティブ・ラーニングの試み 香川県立保健医療大学保健医療学部臨床検査学科 第2回FD研修会 2022年2月</p>

3. 外部研究費（過去5年間）

外部研究費、代表分担区分、期間、研究経費
該当なし